

50カ国救助隊 次々と帰国

発生から6日

被災者20万人

トルコ大地震

【イスタンブール23日海保真人】トルコ北西部の大地震は、発生から丸6日経過し、約50万の緊急援助隊はトルコ政府の救助活動中止要請を受け、帰国を始めた。6日ぶりの生還も報告される一方、生存者救出の可能性は低くなりつつあり、今後は20万人ともいわれる被災者への生活支援が焦点になる。

政府の活動 中止要請

地元にもいらだちも

トルコ政府危機管理センターによると、23日午前2時(日本時間同8時)現在、死者は1万2148人、負傷者は3万4000人を超えた。トルコの地元紙は同日、米国の援助隊派遣の申し出を同センターが拒否したことを報じ、「妨害活動だ」と非難。生存者救出が

報道されている中で救助活動を打ち切る政府の対応に、いらだちが表面化している。

ヤロバ近郊では4歳の男

児が6日ぶりに救出された。救助隊と地元テレビが報じた。男児は元気だという。アナトリア通信によると、ヤロバ近郊のチュナルジュクで23日、地震発生から約150時間ぶりにがれきの下から3歳の男児がイスラエル救

助隊に救出された。救助隊の撤収が始まる中、一部地域でいちの望みを託した救助作業も続いている。被災地では23日、地震発生後初めて大雨が降った。製油所火災が起きたイズミト周辺では空中に舞い上がった汚染物質を含んだ雨が降る可能性があるとして、ドルムシュ保健相は住民に退去を呼びかけた。

またトルコ政府は、雨が降る前に急ピッチでテナントの配給や避難所を確保するよう指示した。しかし、住民の間には配給物資が行き渡らないことなどで、政府や軍に対する不満が募っている。

2度目の「奇跡の生還」

【イスタンブール23日共同】日本の援助隊が約58時間ぶりにがれきの下から救出した女性は、60年前にトルコ東部で起きた大地震の際にも生き埋めになった後、助け出されていたことが分かった。

メラハット・ウズトゥルクさん(74)は今年17日、夏休みで訪れたトルコ南西部ヤロバの別荘で地震に見舞われた。地上4階、地下1階建てアパートの2階で寝ていたが、アパートは全壊。19日午後、救出された時は地下室で倒れていた。

メラハットさんは病院に収容された。脱水症状から

日本隊が58時間ぶり救助の74歳

60年前の地震でも

くる腎臓、肝臓機能障害があったがほぼ回復、今は全身のすり傷、打撲の治療を受けている。

メラハットさんの「最初の奇跡」は、1939年にトルコ東部を襲った大地震だった。息子のアハメトさん(42)によると、約3万人の命を奪った地震で自宅は全壊。14歳のメラハットさんはベッドの下に潜り込んだが、がれきの下敷きに。両親や親類は全員が死亡し、メラハットさんだけが16時間後に救出され、当時も「奇跡の生還をした少女」として話題になった。

った汚染物質を含んだ雨が降る可能性があるとして、ドルムシュ保健相は住民に退去を呼びかけた。

またトルコ政府は、雨が降る前に急ピッチでテナントの配給や避難所を確保するよう指示した。しかし、住民の間には配給物資が行き渡らないことなどで、政府や軍に対する不満が募っている。